

第 3 回サマーセミナー

「音響学の基礎と最近のトピックス」

会議報告

山崎芳男 (早稲田大学国際情報通信研究センター) **・益戸 宏 (特許庁審査第 5 部) ***

御厨公輔 (早稲田大学) ****

去る 7 月 23 日 (日) ~ 25 日 (火) の 3 日間長野県白馬村のシエラリゾート白馬において日本音響学会第 3 回サマーセミナー「音響学の基礎と最近のトピックス」を開催した。

参加人員は 74 名 (内学生 65 名)。昨年, 一昨年と同様に趣旨をご理解いただきボランティアでできるだけ広い分野の先生方に講師をお願いした。プログラムは以下のとおりである。

第 1 日目 (7 月 23 日) は午後 1 時に現地集合し, 2 時から上羽貞行 (東工大) 「超音波の概要と最近のトピックス」, 3 時 15 分からは聴覚関連で小澤賢司 (山梨大) 「音の方向定位について」と鈴木陽一 (東北大) 「健聴・難聴とデジタル補聴」, 夕食後 7 時から三井田惇郎 (千葉工大) 「マルチメディアによる音響工学教育」の講義が行われた。質疑応答に続いて講師を囲んで懇親会が開かれた。

第 2 日目 (7 月 24 日) は 9 時から心理音響関連の桑野園子 (大阪大) 「聴覚の時間的要因」, 10 時から騒音関連で子安 勝 (千葉工大) 「計測における不確かさの表現 - 信頼性表現の国際ルール」, 11 時から電気音響で柴山秀雄 (芝浦工大) 「フラクタルな形状をもつトランスデューサによる音場」の講義があり, 午後はフリーとして第 1 回目に好評であったソフトボールやテニス等の運動をしたり, 休息をとったりした。

夕食後 7 時から音楽音響関連の吉川 茂 (九州芸工大) 「可視化情報と楽器音響学」, 8 時から

橘 秀樹 (東大生研) 「建築音響 (基礎)」の講義があった。引き続き質疑応答を兼ね講師を囲んで懇親会が開かれた。

第 3 日目 (7 月 25 日) は 9 時から音声関係で大川茂樹 (千葉工大) 「音声認識研究の話題を中心に」, 10 時からはアコースティックイメージング関連で金井 浩 (東北大) 「超音波診断の基礎」, 11 時から山崎芳男 (早大) 「信号処理の最近の動向」のデモンストレーションを使った講義があった。

第 1, 2 回目同様, 同一の宿舎に泊まったセミナーは参加費用, 宿, 食事, 講義内容を含めおおむね好評であった。今回は 1 日目と 2 日目の懇親会と 2 日目午後のスポーツの時間を設けたが, 受講者と講師のなごやかな交流が行われた。来年以降もぜひ続けていきたい。

今後, 考慮すべき点としては内容と時間の兼ね合いである。大変盛だくさんの講義であったがサマーセミナーとしては受講者が発言する, あるいは受講者同士の討論を設けたい。(山崎芳男)

第 3 回サマーセミナーに参加して

楽器分野で特許の審査を行っている関係上, 音響学に関する幅広い知識の習得が必要であると考え, 今回のセミナーに参加することにした。

音響学といえば楽理の知識やシンセサイザ等の楽器に関連する知識がある程度で, 多岐の部門にわたる今回のセミナーの講義についていくことができるかどうか不安であった。しかし, ほとんどの講義が入門者を対象とした理解し易い内容で構成されており, 期待以上の成果が得られたと実感している。各講義とも 1 時間程度の長さではあったが, 基本的な知識から最近のトピックスまでを平易に解説するといった流れで一貫しており, 関心の持てるものであった。

* The Third ASJ Summer Seminar "Fundamentals of Acoustics and Current Topics."

** Yoshio Yamasaki (Waseda University, Tokyo, 169-0072)

*** Hiroshi Masuto (Japanese Patent Office, Tokyo, 100-8915)

**** Kosuke Mikuriya (Waseda University, Tokyo, 169-0072)

何よりも興味深かったのは、OHPやVTR、Power Point等を巧みに利用すると共に、実際に音を耳で聞いて確認させながら進めていく、といった講義スタイルである。音に関する学問であるだけに、この手法によっておのずと理解の深まったことはいうまでもない。また、学問としての側面だけでなく、パフォーマンスとしても十分楽しめるものであった。

セミナーには全国各地から学生や社会人の方が多数参加されており、3日間を通して大変盛り上がった。特に、普段はほとんど接することのない大学の先生方、様々な職種にお勤めの方々、そして学生の方たちと意見や情報を交換できたことは大変貴重な経験であったし、また、いい思い出となった。

最後に、主催者の皆様方のご尽力に対し厚く御礼申し上げますと共に、このセミナーがより一層充実しながら永続していくことを心より願う次第である。
(益戸 宏)

私は早稲田大学法学部の学生ですが、音響学に大きな関心を抱いており、早稲田大学国際情報通信研究センター音響情報処理研究室の山崎芳男先生に、サマーセミナーへの参加を勧めいただき、今回研究室の学生の方々に同行させていただくことができました。

サマーセミナーでの講義は、音響研究における基礎概念から最先端の研究内容、最近のトピックスと幅広く、しかし高度な講義内容ながらも実際

の音や映像を交えた丁寧な解説により、予備知識の無い私にとっても大変分かり易いものでした。

私のように専門外の者からすると、「音響学」といえば楽器やAV機器に関する研究、あるいはインターネットで話題となっている音声圧縮技術や携帯電話などでの通信技術に関する研究を思い浮かべます。しかし、例えば建築音響や騒音・振動、超音波といった研究に関する講義も行われ、その研究分野が非常に幅広いということに驚かされました。

科学の最先端の分野というと、我々文科系の人間には、法律学など社会科学系の学問以上に概念的あるいは哲学的で、実体の存在しないもののように感じられます。しかしサマーセミナーに参加し、例えば音波を利用した海底の地殻変動の探知による地震観測、医療現場における超音波診断やデジタル補聴器の開発、騒音・振動公害の研究対策など、音響学のあらゆる研究結果が我々の生活環境の改善・向上に貢献しており、非常に社会還元性の強い学問であるという印象を受けました。講義終了後の懇親会などでも、講師の先生方のみならず、民間企業からの参加者の方などからも非常に興味深いお話を伺うことができ、今回のサマーセミナーへの参加は私にとって大変貴重な経験となりました。今後、更に多方面からの出席者が増えることを期待すると共に、次回以降もぜひ参加させていただきたいと考えています。